山村塾は都市と農山村の住民が一緒になり環境にやさしい米づくりや
豊かな生態系の森づくりを通じて山村の環境を守るグループです

2020年12月号

こめづくり もりづくり ひとづくり

山村塾通信

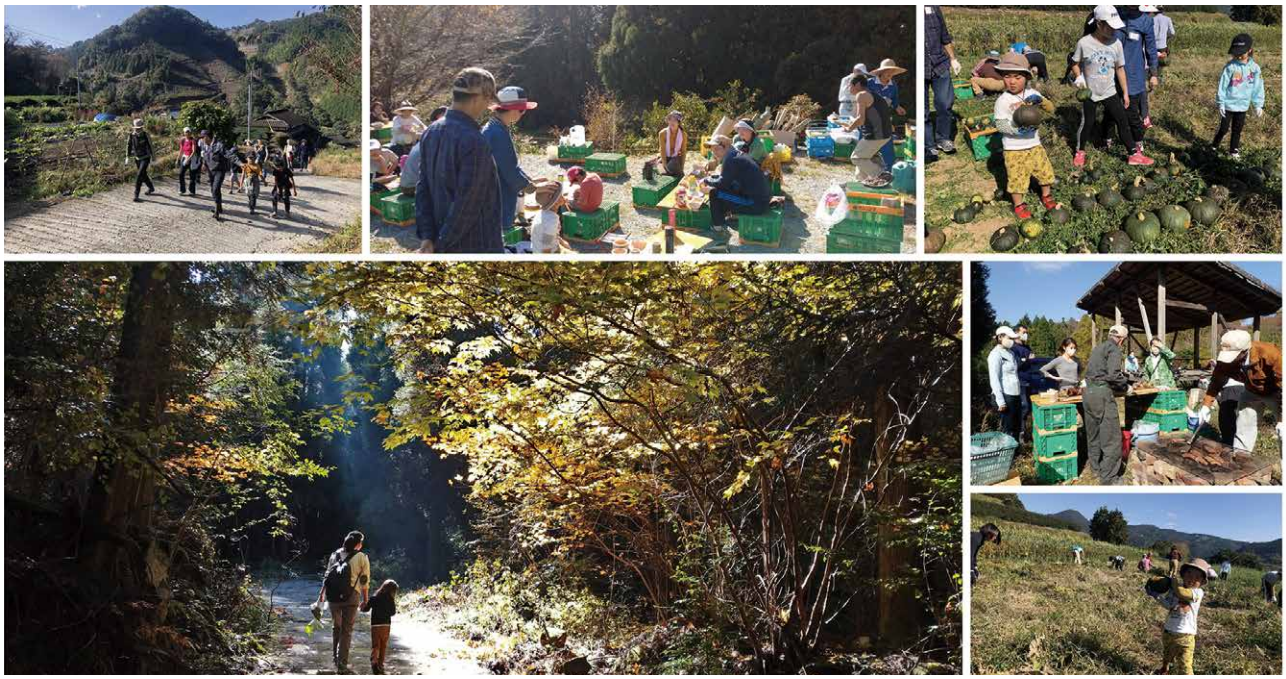
「秋を味わう」

収穫祭のない11月をどうすれば楽しめるか？と運営メンバーで考えた末、山林コースと稲作コースのそれぞれで里山ハイキングをやろう！となりました。

＊11月8日（日）山林コース編／往復10km　ケヤキ林まで軽登山！／
会員13名＋スタッフ6名＝計19名
えがおの森からケヤキ林まで片道約5kmの道のりをのんびりと2時間近くかけて登り、宮園家の特製弁当（野菜天ぷら、いのししフライ、炊き込みご飯、煮豆）と四季菜館から出張してきた合鴨丸焼きを堪能しました。秋の山道は、澄んだ空気と青空の下、山々の紅葉が色づき、赤や黄色の葉っぱが道路に散りばめられて、五感が癒される一日となりました。往復10キロの道のりは、まぁまぁくたびれましたが、小さな子供たちも元気に完走することができました。

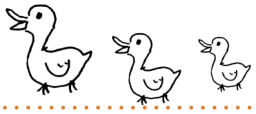
＊11月15日（日）稲作コース編／往復2km　野菜畑までハイキング！／
会員21名＋スタッフ7名＝計28名
椿原家の野菜畑・レンガクボウまで片道約1km歩き、野菜の収穫体験。三チームに分かれてのカボチャ収穫競争は、子供から大人まで大盛り上がりでした。お昼は、畑で炊いた羽釜ご飯、だご汁、手作りコンニャクや漬物、そして合鴨丸焼きと豪華メニューをいただきながら、恒例の自己紹介タイムで山村塾での思い出や子供たちが楽しんでいることを語り合いました。Tシャツになる人がいたほどの晴天の中、野菜畑でのんびりとした秋の一日を楽しむことができました。

大勢の人が集い、気軽に催しや飲食を楽しむには、まだもう少し時間がかかりそうですが、収穫の秋は変わらずに訪れ、美しい景色や美味しい食べ物を楽しむことができました。あたたかな秋が終わりを迎え、冬らしい空気になり、冬野菜も美味しくなってきました。次は冬の景色や味覚を味わいましょう！
（小森 耕太）



秋の里山ハイキング

稲作コースより



稲作コースでは、8月から通常に近い形での活動を再開しました。いよいよ農作業ができるぞ！ということで、猛暑のなかでの草取りや鴨の引き上げにみなさん一生懸命！おかげさまで、2020年も無事においしいお米と鴨が収穫できました。

行事では、受付時の体温確認や、消毒、マスク着用、食事の提供方法の変更など、感染症対策をとりながら開催しています。定員を少なくしての募集のため、定員を超えた際には抽選となり、残念ながら参加が叶わなかった方もおられたりと、様々な制約のあるなか、毎回みなさんにご協力いただきながら運営しています。いつもありがとうございます。まだ"これまで通り"にとはいかないですが、田んぼでみなさんと活動する時間はやっぱりいいなと、そのありがたみを改めて感じています。みなさん、また田んぼでお会いしましょうね！（原 愛子）

日付	行事名	会員	一般	スタッフ	参加者計
8/2	田の草取り	17	3	7	**27**
8/9	田の草取り	21	0	7	**28**
8/23	鴨の引き上げ	19	0	5	**24**
10/4	稲刈り①	19	0	5	**24**
10/11	稲刈り②	22	0	6	**28**
10/24	鴨さばき①	11	0	5	**16**
10/25	鴨さばき②	13	0	5	**18**
11/15	秋の里山ハイキング（稲作）	21	0	7	**28**

10/4 稲刈り

8/9 田の草取り

8/23 鴨の引き上げ

農家の声

皆様お変わりなかですか？久しぶりに山村塾通信にむけてペンを取りました！

もう師走に入ろうとしている時期！この暖かさは本当に異様ですね！この気候で畑の野菜が次から次に成長しています。本来なら真っ白な霜が降り、凍ってから、自分を守ろうとして甘くおいしくなるようですね！私の手も冷えまいと赤くなり、かじかんで火照るこの手は、自分を守るためなのかなと、野菜と一緒かもしれんと思う時があります。その季節に似合う気候でなければ、いろんな障害が生まれますが、心身共にどんな気候変動、環境にも対処できる、そんな自分でありたい！と願うばかりです！

今年はコロナに始まり、また第三波が渦巻いているなか終わりそうですが、我々百姓は自粛といっても山、畑、田んぼと向き合わなければ生活が成り立たず…今年ほど百姓で良かった！と思ったことはありませんでした！

先日の会員行事で、初めて来た時には幼稚園生だった姉妹が、家族そろって参加され、社会人になられた姿は本当にわが子のように嬉しくてなりませんでした。（約20年会員であられます。）

平成6年に山村塾は立ち上がり、皆様方のおかげで26年になります。四季菜館は3年後の平成9年にでき、その頃は私も40歳でした。病気やケガには程遠いと思っていた我々も主人共々、古希に近い年齢になり、注視しながら日々送ろうと思っています。

今年もあっという間の一年でしたが、会員の方々とは思うようにふれあうこともできず終わろうとしています。我々もあきらめず、ぜひまた黒木の里山でお会いしたいものです！今年も一年間本当にありがとうございました！来年こそまたよい年でありますように！

四季菜館
椿原まり子

山林コースより

好天が続いたこの秋、山林コースでは、青空に映える紅葉を眺めながらの活動となりました。

10月は、「枝打ち」を変更して「ケヤキ林の手入れ」を行いました。植林した木のまわりの雑木を伐ったり、植林木の日よけの役割を終えたヒノキの巻き枯らし（樹皮を剥いで枯らす方法）をしたりなどの手入れをし、午後からはグリーンウッドワーク（生の木を使う木工）にも挑戦！みなさん夢中で、秋の森を満喫した1日になりました。

ちょうど最近、ケヤキ林で最初の植林を行った1993年当時の企画書を見せてもらい、ケヤキ林での森づくりが山村塾の設立（1994年）に繋がっていることを再認識しました。そんなケヤキ林では、27年の歴史を重ね様々な木が育っていて、魅力的な場所です。11月の里山ハイキングでは、いつも車で移動するケヤキ林まで歩いて登り、新たな楽しみを発見することができました。またハイキングできたらいいなあ…と企んでいます！（原 愛子）

木の家ができました！

日付	行事名	会員	一般	WC	スタッフ	参加者計
10/18	ケヤキ林の手入れ @ケヤキ林	3	9	1	5	**18**
11/8	秋の里山ハイキング @えがおの森～ケヤキ林	13	0	0	6	**19**
11/22	間伐 @十人組共有林	8	2	0	3	**13**

10/18 ケヤキ林の手入れ　巻き枯らしに挑戦

グリーンウッドワーク！

11/22 間伐

みなさんこんにちは。お元気ですか。

最近は、冬にむけて椎茸のほだ木を伐ったり、山の手入れも始めているところです。椎茸の収穫は例年9月末からですが、今年は高温で11月にずれ込んでいます。米のほうは猛暑でウンカの心配がありましたが、我が家の田んぼに大きな影響はなく、例年並みの出来でほっとしています。

先日11月22日の山林コース「間伐」では、平成23年に植えた9年生のスギの間伐をしました。スギを植えてから収穫するまで約50年の間に、間伐（木の間引き）を何度か行う必要があります。今回活動したスギ林では、植林してから初めての間伐で、5本に1本の割合で伐る必要があり、だいたい三分の一が終わりました。間伐した材は3mに切って運んでもらったので、林の中がだいぶきれいに、明るくなってよかったです。ありがとうございました。この間伐材は1本150円～200円くらいで売れ、杭木になります。

この現場は「十人組共有林」という、地元10軒の農家で持っている共同山です。共同で管理するものですが、スギ・ヒノキの材価が低迷し収入にならないというので、山の手入れになかなか手が回らんというところ、最近は山村塾の研修などで伐木実習の場として活用し、手入れをしてもらえて助かっています。

農林産物の価格が低迷していて、特に中山間部の露地栽培は厳しく、それでも「安くていいものを作れ」というのは限界があります。緑茶よりコーヒー、お米よりパンがいいという消費動向も、茶と米の生産者としてはつらい。農家が食べ続けていくこと、次の世代に伝承していくことが難しい時代だと思います。ぜひ、農産物も木材も国産のものを使ってもらいたいです。

コロナで外との接触や出会いにブレーキがかかり、山村塾の活動も制限があり難しいですが、対策しながらみなさんと活動できたらと思います。冬は椎茸菌打ちや炭焼きなどがあります。またお会いしましょう。

山林コース
宮園 福夫

ワークキャンプレポート　奥八女芸農ワークキャンプ

コロナ禍においてワークキャンプ・ボランティア事業をどのような形で行うことができるか、随分と議論を行いました。６月から日帰りボランティアを試行し、８月下旬からの「奥八女芸農ワークキャンプ」は海外からの参加は断念しましたが、日本人限定で何とか開催することができました。

芸農 WC の参加者は総勢８名で、NICE から５名とアーティストとして３回目の参加となる武田力さんは家族連れで、ワークキャンプ初の赤ちゃんと一緒での参加でした。えがおの森での 50 日間では、農作業とアートワークだけでなく、家族の営みのような共同生活も経験できたように思います。

感染症対策に配慮しながら、地域の交流、アートの発想に資するプログラムにはかなり検討を重ねました。３密を避けるために、飲み会などリスクが高い対面交流は極力減らしました。代わりに、オンラインでの講座開催や、棚田で八女茶山唄・踊りをするという発想が生まれ、これまで隠れていた選択肢を発見することができました。

（ファン ポウェイ）

■遠山 貴史

施設のお湯はボイラーから作り出す。そのボイラーの仕事は早朝に取り掛かる。連日 100℃近くの温度を作るボイラーも、次の朝にはその熱はほぼ完全におさまっている。まつりの後の静けさにの中に燃料（木材、竹、松ぼっくり等々）を入れ着火する―

当初、火起こしに戸惑っていた私に偶然通りかかったおじさんが「（燃料を）わんさか入れたらいい、最初から上手に出来るのは放火魔ぐらいよ」と、大きな声で笑いながら教えてくれた。上品になり過ぎると火起こしは上手く行かないことを教えてくれた。

■吉田 梨乃

奥八女芸農ワークキャンプに参加して、一番印象的だったことはお茶農家さんへのインタビューです。好まれるものにどんどん自分の家のお茶を近づけなければ売れないという話は、現実的でありながらもどこか寂しさを感じました。このインタビューを通じて普段何気なく飲んでいるお茶の見る目が変わりました。

参加してたくさんのものを得ることができたと思っています。ありがとうございました！

■伊賀 絢加

あっという間に過ぎた１ヶ月でした。朝起きてすぐワークキャンプメンバーと分担して行うボイラーの準備や山羊のお世話などの朝タスクから１日が始まり、農業やアーティストの方との活動に取り組みました。美しい風景と笠原の方々の優しさに溢れた時間で、今でも何度も写真を見返してしまいます。これからの未来へ笠原のような山村地域の伝統や風景をどのようにして残していくことができるのか。私１人の力は小さいですが、このワークキャンプで学んだことから考え行動したいと思います。

■牧瀬 里桜

えがおの森では人や自然のあたたかさに触れ、経済が優先され失われつつある生活の形の一部分を体感することが出来ました。

気候変動などの環境問題、コロナ禍でも経済を優先する動きが見られる中で、アートを活用した伝統文化の継承や、持続可能な暮らしを経て、これからの世界で優先するべき豊かさとはなにか。そして自分自身がどう在るべきなのか。改めて考える機会になりました。えがおの森で出会ったみなさん、ありがとうございました！

■安藤 玲

芸能と農業、というテーマに何をするんだろう？と想像がつかないままの参加でした。日々の活動を通して、かつて芸能と農業が密接な関係にあったことを知り、二つの視点から笠原という土地の伝統や文化について、深く考えるきっかけとなりました。その中で地域の方と関わり、ほんの少しかもしれないけれど、生活を知って、繋がれたように感じています。

正直コロナウイルスがなければ笠原には行っていなかったかもしれません。けれど、こんなことがあったから、まだまだ知らなかった日本の現状に触れて、たくさんの方に出会うことができました。とても穏やかに、豊かな時間を送ることができたワークキャンプでした。

2020.8.24 ～ 10.12（50 日間）

ワークキャンプメンバーの声

■武田 ちゑ

『営み』を体感した期間でした。月齢の娘を連れての滞在で、最初は大変！ばかりでしたが（笑）身体が慣れ、周りの人達と対話が出来る様になってからは、ワークキャンプも、そこに赤ちゃんがいる事も良い状況と楽しめました。一つ一つ説明しないとわからない個々の『当たり前』をミックスし続けながら、自然を優先し生活した日々はとても人間らしかったなと思います。今日もあの場所は営まれているのだとたまに想いを馳せています。

棚田での八女茶山踊り ／写真：富永亜紀子

■武田 力（アーティスト）

今年の奥八女芸農学校は「土」を教材に、オンラインで開催しました。コロナを経て我々はどう生きるべきなのか、「土を育てる」ことで思索を重ねました。育てる行為には無数の正解があります。受講生の住環境に依ってなにが芽吹くかは変わり、土から顔料や舞踊をつくる方もいました。言葉を発さない土にどう関心を寄せ、いかに創造的な関係を築くか。このコロナ禍をはじめ、現代には多くの分断が見られますが、土を育てることは、それらを乗り越えるための他者へと想像力を向ける行為と近しいのではないでしょうか。

その他の活動報告

▶日帰りボランティア　8 月～ 9 月

日付	活動内容	会員	一般	WC	スタッフ	参加者計
8/5	田の草取り＠屋敷	2	0	0	1	**3**
8/6	田の草取り＠屋敷	0	3	0	1	**4**
8/16	草刈り＠屋敷、鰐八	2	1	0	1	**4**
8/28	草刈り＠鰐八	0	1	2	1	**4**
9/1	草刈り、ラッキョウ畑仕事＠鰐八	1	0	2	1	**4**
9/12	草刈り、田の草取り＠鰐八、屋敷	2	1	5	2	**10**
9/13	草刈り、ラッキョウ畑仕事＠鰐八	2	0	5	3	**10**

６月～９月のあいだ、米作り、ラッキョウ作り、草刈りにと大活躍でした！ご参加ありがとうございました。

▶そのほかの活動

日付	活動内容	会員	一般	WC	スタッフ	参加者計
8/22-23	宮永ワーク	0	8	0	3	**11**
8/29-30	棚田の草刈り	5	1	0	3	**9**
9/21	唄って踊って味わう八女茶山	4	35	5	15	**49**

福岡県受託事業として
自伐林家育成研修 ＆
森林づくり活動安全講習会
実施中です！

自伐林家育成研修では、現在 10 名の受講生が、8 月から月に 1 ～ 2 回ほど研修に励んでいます。

事務局より

認定 NPO 法人山村塾　会員募集！

●会員の種類は、総会での議決権を持つ正会員と議決権を持たない賛助会員の 2 種類です。
●いっしょに田んぼや山で働く**活動コース会員**（稲作・山林、稲作、稲作 30kg、山林、古里）も、いつでも募集しています！

ご寄付のお願い

山村塾の活動は、皆様からのご寄付で支えられています。ご協力のほどよろしくお願いいたします。
＜ヤマヤマ基金＞農山村の環境を守る活動全般に役立てられます。
＜平成 29 年豪雨支援＞山村塾では寄付を活用し、朝倉市黒川地区の復興を支援します。

ご寄附の方法

■郵便振込口座から
　加入者名：特定非営利活動法人山村塾
　口座番号：０１７９０－３－１６９３９８
　※通信欄にどちらのへのご寄付かご記入下さい。
■銀行から
　銀行名：ゆうちょ銀行　店名：一七九（店番：１７９）
　口座：当座　０１６９３９８
　※銀行からお振込みされた方は、お名前とご住所またはメールアドレス、寄付先をお知らせ下さい。
■農産物を買う
会員の方が、椿原家と宮園家の農産物・林産物を購入されると、その一割が**ヤマヤマ基金**へ入ります。
■古本で寄付ができます！
古本や DVD を「きしゃぽん」にお送りいただくと、買取金額が山村塾への寄付となります。ぜひご協力をお願いします。（古本集荷依頼 TEL：0120-29-7000、山村塾に寄付したい旨をお伝えください。）

◎年会費納入

以下の方々から年会費を納入いただきました。ありがとうございます。（10/31 入金まで。敬称略）
■正会員：東島健、藤井勝己
■賛助会員：河野薫、久保川春菜、内藤茂樹、前島美江
■活動コース会員：【稲作】久保川春菜、東島健【稲作 30kg】河野薫、髙橋由美子【山林】古賀仁美【古里】近藤雅直、濱岡謙二

◎寄付者

以下の方々から頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。（10/31 入金まで。敬称略）
■ヤマヤマ基金：吉元俊憲、川﨑光洋、稲月ひかり、松本和郎、野瀬留美、伊藤美智、このみ林業　木稲稔、豊国寛隆、中島幸代、宮園福夫、久保川春菜、羊の和。、池尾久美、金子緑、椿原勇人

■笠原復興基金：かってに林業を応援する会

◎企業・団体からの寄付

■古本募金きしゃぽん様を通じてご寄附をいただきました。（8/27：358 円）

山村塾の今後の予定

日程	行事名
1/9（土）	「左義長準備」
1/10（日）	全体行事「左義長」
2/7（日）	山林コース「しいたけ菌打ち」
2/13（土）・14（日）	里山ミニワーク「農産物加工」
2/28（日）	山林コース「植林」
3/14（日）	山林コース「炭焼き」

◆イベントの開催・詳細について

イベントの開催については状況に応じて随時判断し、ホームページ、メールニュース等でお知らせします。詳細はお問い合わせください。

◆お申込み方法

どのイベントも、どなたでも参加頂けます（定員、一部年齢制限あり）。事前申し込み制です。事務局まで WEB フォーム、メール、電話、FAX でお申込みください。

編集後記

2020 年もあっという間に終わりですね。今年は大変な 1 年でしたが、コロナ禍だからこその新しい取り組みも生まれました。今年一年、ありがとうございました！この冬は寒くなるそうなので、笠原もとても寒いんだろうなあ…。身体に気を付けて冬を乗り切りましょう！（原）

最新情報は
ホームページより

山村塾ホームページ
山村塾　検索

＼お問い合わせ大歓迎！／

山村塾（こめづくり もりづくり ひとづくり）　**認定 NPO 法人 山村塾**
〒 834-1222　福岡県八女市黒木町笠原 9836-1
TEL・FAX 0943-42-4300
Email：info@sansonjuku.com　**HP** https://sansonjuku.com
FB　https://www.facebook.com/sansonjuku
発行者：小森 耕太
編集者：原 愛子

※山村塾は認定 NPO 法人です。山村塾へのご寄付は寄付金控除の対象となります。